COLUMN

成田空港の更なる機能強化における環境影響評価について

成田国際空港では、今後予想される世界的な航空需要の増加に対応するため、既存滑走路の延長や滑走路の増設などを含む成田空港の更なる機能強化策の具体化に向け、2015年9月より、国、県、空港周辺9市町、当社で構成される四者協議会で検討を開始しました。その後、本機能強化に伴う周辺環境への影響について、環境影響評価法に基づく環境アセスメントを実施し、環境影響の評価とその保全措置等をまとめ、2019年9月27日に「環境影響評価書」を公表しました。

今後は、関係者の皆様のご協力も得ながら、「環境影響評価書」の中で示した環境への影響を低減、または代償する施策を確実に実行していきます。

環境保全措置

環境影響評価書には、大気質、騒音、水質、水文環境、動物・植物及び生態系と分野ごとに分け、それぞれの保全方法をまとめています。

特に動植物の分野では、鳥類や両生類、昆虫類、魚類等、合計2,000種を超える動物を確認し、このうち215種が絶滅危惧種などに指定されている重要な種でした。また、維管束植物や大型菌類など、合計1,800種を超える植物を確認し、このうち88種が絶滅危惧種などに指定されている重要な種でした。これらの重要な種などに対する保全の予測評価を基に、影響が少ない場所への移植などの代償措置や環境保全措置を実施します。

現在、貴重な動植物の移植や代償措置などの環境保全措置について順次開始するとともに、ニホンイシガメ、アカハライモリの個体の捕獲と域外保全飼育を行っています。

〈保全対象となる動植物の例〉

アカハライモリ

キンラン

オオタカ

ホトケドジョウ

事後調査・環境監視調査

本事業の環境影響評価に係る選定項目としたもののうち、予測の不確実性の程度が大きい選定項目などについて、「事後調査」を実施します。また、ほかに当社が必要と判断した項目については、自主的に「環境監視調査」を実施します。

項目		影響要因	調査時期・調査機関・頻度	
事後調査	大気質	建設機械の稼動	二酸化窒素濃度	C滑走路区域の工事期間中に通年調査
			粉じん(降下ばいじん量)	造成工事の実施期間中に4季調査(各季1カ月間)
	騒音	建設機械の稼動	建設作業騒音	騒音の影響が最も大きくなると想定される時期に環境基準超過地点で3日間調査
		航空機の運航	航空機騒音及び機材クラス別の発着回数	年間発着回数が50万回に近づいた時点等に、通年調査または短期測定(夏季・冬季)
	水文環境	造成等の施工・飛行場の存在	河川流量	工事着手1年前から工事完了1年後まで、4季調査、河川水位は自記水位計で連続観測
			地下水位	工事着手1年前から工事完了1年後まで、自記水位計により連続調査
			地下水質	年間発着回数が50万回に近づいた時点に、地下水環境基準関連項目及び飲用井戸関連項目を1回測定
			湧水	工事着手1年前から工事完了1年後まで、湧水確認地点で4季調査
	動物 植物 生態系	造成等の施工・飛行場の存在	猛禽類	営巣分布、繁殖成否、代替巣の利用状況等
			ホトケドジョウ	個体数、繁殖状況等
			谷津環境の生物	整備した谷津環境の生物相の変遷、個体数等
			その他の移植・移設個体	個体数、繁殖状況等
環境監視調査	大気質	航空機の運航	NOx、SPM、気象等	空港周辺における常時監視
	騒音	航空機の運航	航空機騒音及び機材クラス別の発着回数	空港周辺における通年調査及び短期測定
	水質	飛行場の施設の供用	COD、BOD	常時監視(COD)及び定期測定(BOD)
	人と自然との触れ合いの活動の場	飛行場の存在・航空機の運航	利用状況、利用環境の状況	供用後に主要な人と自然との触れ合いの活動の場での4季調査

※水文環境、動物・植物・生態系の事後調査は、供用後は順次環境監視調査に移行して継続

TOPICS

“サシバやオオタカ等の保全のため、代替巣を設置”

成田国際空港周辺には、絶滅危惧種に指定されているサシバや、準絶滅危惧種に指定されているオオタカ等の猛禽類が生息しています。本事業により消失してしまう猛禽類の繁殖地を代償するため、改変されるエリアの外において、人工代替巣の設置および代替営巣林の環境整備を実施しました。2022年度にはサシバの代替巣利用が確認されています。今後は代替巣での繁殖成功を目指し、引き続き専門家の助言を受けながら保全措置の取り組みを進めてまいります。

代替巣を利用するサシバ